

平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年3月26日
研究・研修課題名	がん病態栄養専門管理栄養士、病態栄養認定管理栄養士の資格更新のための学会及び研修会参加
研究・研修組織名(所属)	栄養治療室
研究・研修責任者名(所属)	平井 順子 (栄養治療室)
共同研究・研修実施者名(所属)	

目的及び方法、成果の内容

①目的

平成27年度、がん病態栄養専門管理栄養士と病態栄養認定管理栄養士の資格を取得した。この資格は、がん患者の栄養管理・栄養療法について高度な知識と技術を習得した管理栄養士の育成を図るものである。がん診療連携拠点病院の栄養士として、がんに対する予防・治療・ケアに食と栄養の側面から寄与するために必要な知識と技術を修得し、また、院内のがん患者の栄養管理のレベルを向上させることを目的とする。

②方法

がん病態栄養専門管理栄養士と病態栄養認定管理栄養士の資格を更新するためには、学会や研修会参加は必須である。研修会参加と学会発表を目指す。

(がん病態栄養専門管理栄養士の資格は、病態栄養認定管理栄養士資格を有していることが必須条件であるため、これら2種類の資格を更新する必要がある。)

- 1) 第21回日本病態栄養学会年次学術集会 参加 (2018年1月12~14日 京都)
- 2) がん専門管理栄養士セミナー 参加 (2017年7月2日 東京)

③成果

- 1) がん専門管理栄養士セミナー (2017年7月2日 東京)

がん専門管理栄養士の資格更新のための必須研修である、日本病態栄養学会が主催する教育セミナーに参加し、資格取得に必要な単位数のうち5単位を取得できた。

教育セミナーの内容は、がんの基礎知識、消化器がん、婦人科がんについて講義が行なわれ、また、化学療法、放射線治療と栄養障害、栄養アセスメント方法などについても講義が行なわれた。

①がんの基礎知識：がんの原因、がんの疫学、がんの診断と治療、がん診療の倫理について講義が行なわれた。がん対策推進基本計画や医療倫理に至るまで幅広い講義内容だった。

②消化器がん：食道癌、胃癌、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんそれぞれが取り上げられ、病型分類から治療法まで基礎知識について確認することができた。特に、それぞれのがんの種類の進行度分類について理解することは患者さんの状態を知ることができる情報であり改めて確認することができた。

③婦人科がん：子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がんの病期や予後について、また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群など新しい情報も得ることができた。また、婦人科がんにおいても骨量低下や低栄養など栄養管理が必要とされており、栄養士の役割を再認識させられた。

③がん化学療法、放射線治療と栄養障害：がん治療においては、食欲不振、悪心・嘔吐、下痢、粘膜障害など様々な副作用が出現し、栄養状態の低下を招くことが少なくない。副作用に対する対処方法や栄養アセスメントの基本を確認することができた。患者さんが最後まで治療を遂行できるよう、がん治療による栄養障害の原因を理解し、患者さんの気持ちにも配慮した栄養管理を行なうこと、また、食事の支援を行なうことの重要性を改めて感じた。

④栄養アセスメントと治療：SGA、ODAなどの基本的な栄養アセスメント方法から、がん患者さん特有の代謝や体組成の変化、それに対するなど栄養療法について確認することができた。

なお、今回の申請で予定していた第21回病態栄養学会年次学術集会（2018年1月12～14日 京都）については、学会に参加し単位を取得したが、残額では旅費、宿泊費が不足してしまうため助成金を使用しなかった。また、本年度、病態栄養認定管理栄養士の認定更新をすることができた。

<p>* 一般社団法人 日本病態栄養学会 病態栄養認定管理栄養士 認定年月日【2018年4月1日】</p>
